

四万十川の行く末

川が泣いています。
私たちに、大いなる恵みを与えてくれた四万十川が…。
その涙の理由は、私たちの営みにありました。



神田事務局長に
聞く!

今の四万十川への素朴な疑問

Q 昔と今、川の何が変わったの?

A 川底の状態が変わっています。

川は水だけではなく、砂利や玉石なども流しています。しかし、山林の荒廃や圃場整備、砂防事業などさまざまな要因で、その砂利や玉石などが下流へと流れる仕組みが変わってしまいました。

大きな石が流れなくなり、細かい砂や泥のみが下流へ流れ、川底に溜まっている状態となっているのです。

Q 川底に砂が溜まるとなぜいけないの?

A 砂が石の隙間に入り込んで、川底が固まってしまうからです。

細かい砂が、石と石の隙間に入り込み、目詰まりを起こすと、川の底石が動かなくなり、固まってしまう。

石の裏に生息する水生生物も減少し、魚の産卵場所もなくなることで、川底の生き物に大きな影響を及ぼしてしまうのです。

Q 今から私たちにできることは?

A 川に関心を持って、みんなで川をもっと見るようにしよう!

四万十川は、流れが緩く汚れやすい川と言えます。そんな四万十川を、これまで清流として守ってきた文化や知恵がこの町にはあります。その知恵を繋ぎ、多くの方が川に関心を持って川を見始めると、洗い物一つとっても、その洗い方が変わってくるはず。



(公財) 四万十川財団
事務局長 神田 修さん

日頃、見ている川を、誰も汚そうとは思いません。



泥が堆積している川底



泥や砂が堆積していない正常な川底



細かい砂で目詰まりして固まった河原

日常生活の中で、皆さんは四万十川をどのくらい見ているでしょうか。通学時や通勤時、また仕事や買い物の道中など、川を風景の一部としてではなく、この町のシンボルとして、唯一無二のこの町の資源として、川を見ている方はどのくらいいるのでしょうか。

ここ最近、皆さんの中にも「川がやせた」とか、「河原がやせた」という言葉を、耳にしたことがある方がいると思います。

「やせた」要因は、四万十川の

今、四万十川の川底が大変なことに。
川石が砂や泥に埋もれています。

1983年、9月に放送されたNHK特集「土佐・四万十川『清流と魚と人』」。この番組で、四万十川は良好な水質と豊かな水量を誇り、100種以上の生き物が生息する「日本最後の清流」として、その名が全国に知れ渡りました。

それ以降、「四万十川」というブランドが確立され、全国へと広がり私たちの暮らしに大きな恵みを与え続けています。

しかし、その四万十川に近年、異変が起きつつあるのです。今回の特集では、そんな四万十川の知られざる現状に迫り、四万十川の豊かさが、これから先も永遠に約束されたものではないということ、考えてみたいと思います。

その恵み、「あたりまえ」だと思わない。
「清流四万十川」への感謝を忘れない。

知らぬ間に受けている恵み

四万十川の恵みとして代表的なものに、天然のアユやウナギなどの川の幸があります。そのほかにも、稲作をはじめとする農業に使用する水や蛇口をひねれば勢いよく流れ出る水道水も、また四万十川の恵みと言えます。

また、四万十川の恵みは、直接的なものだけではなく、この「四万十」という名称そのものがブランドとなり、農作物や畜産物、加工品などに多く利用され、そのブランド力が持つ価値が、知らぬ間に私たちの暮らしに大きな恵みをもたらしてくれています。

